

集計結果報告

H.C.R.2023 福祉機器利用者アンケート



福祉機器利用者や福祉・介護現場の要望や意見を開発につなげることを目的として、本会では例年に続き、福祉機器利用者やその支援者を対象とする「福祉機器利用者アンケート」をH.C.R.2023の会期中に実施し、178件の回答を得ました。

回答者の内訳として、年齢別では60歳代が28.1%と最も高く、続いて50歳代が26.4%、40歳代が19.7%と続きました。

本アンケートにおいて、福祉機器利用者にとって関心の高いと思われる回答が多く寄せられた「福祉機器情報の入手方法」、「購入／レンタル時の相談窓口」、「Web

上での情報収集方法」、「福祉機器の利用にあたって望まれること」を集計しグラフにまとめました。また、「福祉機器の開発や利用についてのご意見」にいただいた回答の概要を、項目ごとにまとめて掲載しています。

本会では、アンケート結果を参考とし、H.C.R.をはじめとした事業をとおして、福祉機器利用者に資する情報の発信に努めます。

福祉機器開発・販売関係者の皆さまにも、今後の開発・販売の拡充に向け本アンケート結果を参考にいただければ幸いです。

1 福祉機器の情報はどのように入手していますか？

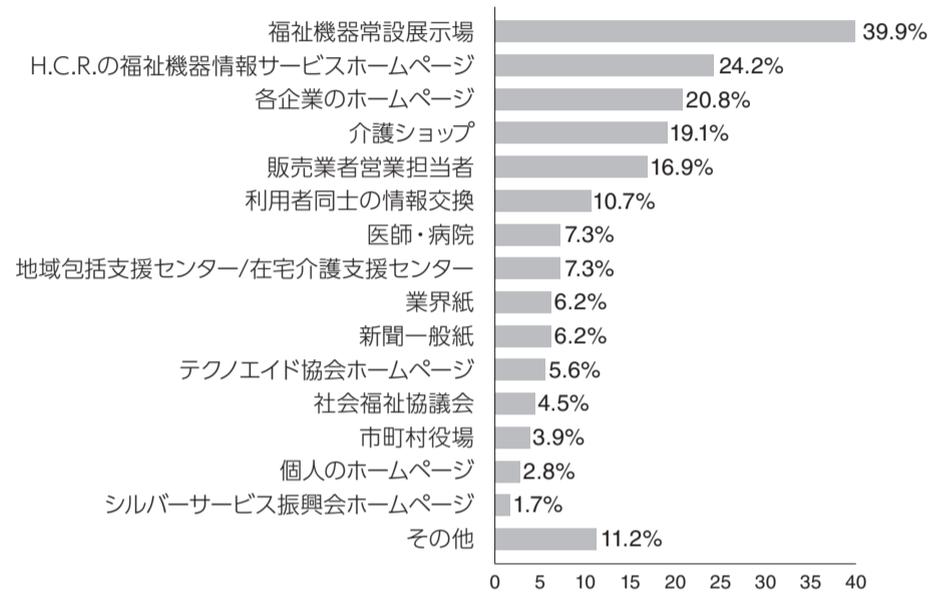
〔複数回答可〕

福祉機器の入手方法（場所）は、例年同様「福祉機器常設展示場」が39.9%と最も高い結果でした。

続いて「H.C.R.の福祉機器情報サービスホームページ」が24.2%、「各企業のホームページ」が20.8%と続き、以降、「介護ショップ」19.1%、「販売業者営業担当者」が16.9%でした。

これらの結果から、福祉機器情報を得るための手段としてインターネット媒体が定着していることが伺えます。さらに、その他の項目ではSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の利用をあげる回答が多く、情報収集のツールが多様化していることが伺えました。

一方で、福祉機器常設展示場をはじめとして、機器を実際に見て、触って、相談することができる機会の重要性は大きく、欠かせない場であることが伺えます。



* その他：SNS（X(旧Twitter)、Facebook等）、福祉専門学校、知人

2 福祉機器を購入／レンタルするとき、相談された窓口はどこですか？

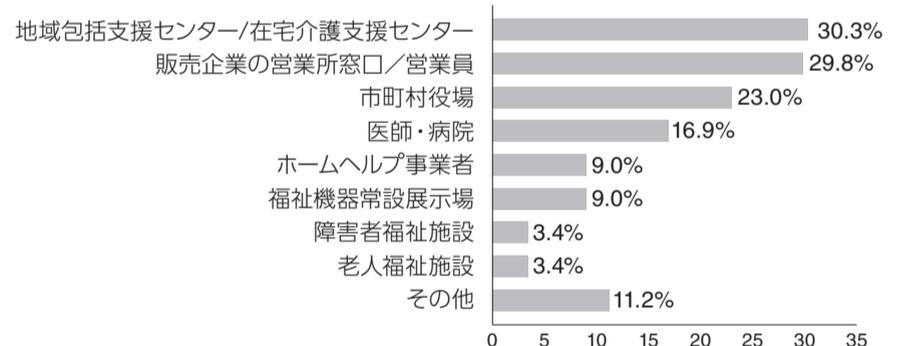
〔複数回答可〕

福祉機器の購入／レンタル時の相談窓口として、例年同様最も高いのは「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」であり、30.3%という結果となりました。

身近な地域で相談ができ、介護・福祉分野の専門職が配置されていることから福祉機器利用者の環境や状況にあわせた適切な対応ができることが背景にあると考えられます。

次いで「販売企業の営業所窓口/営業員」が29.8%で昨年より3.1ポイント伸びており、コロナ禍による営業自粛が緩和されたことが伺えました。

以降、「市町村役場」が23.0%、「医師・病院」が16.9%と続きました。



* その他：ケアマネジャー、リハビリテーションセンター、福祉機器の貸与事業者 ほか

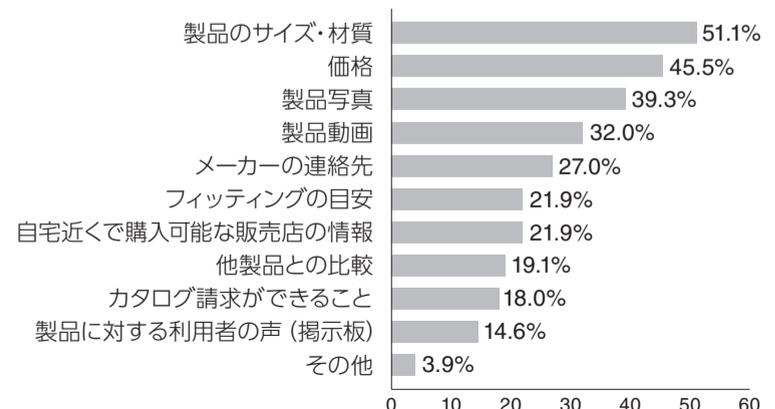
3 Web上で製品の情報を収集する際、どのような情報が必要ですか？

〔複数回答可〕

Web上で製品を情報収集する際に重視する情報について、「製品のサイズ・材質」が51.1%と最も高い結果でした。

また、「製品写真」が39.3%、「製品動画」が32.0%と、製品の仕様がイメージしやすい視覚的な情報が求められていることが伺えます。

「その他」の項目では試用の有無を重視するという回答が多くありました。福祉機器が多様化し情報もあふれている中で、Web上で自身の求めている製品情報を絞り込みつつも、最後の決め手として実際に試用して体験できる機会を必要としていることが伺えました。



* その他：試用の有無、使用場面がイメージできる写真、実製品が見られる機会の有無

5 福祉機器の利用にあたって望まれることは何ですか？

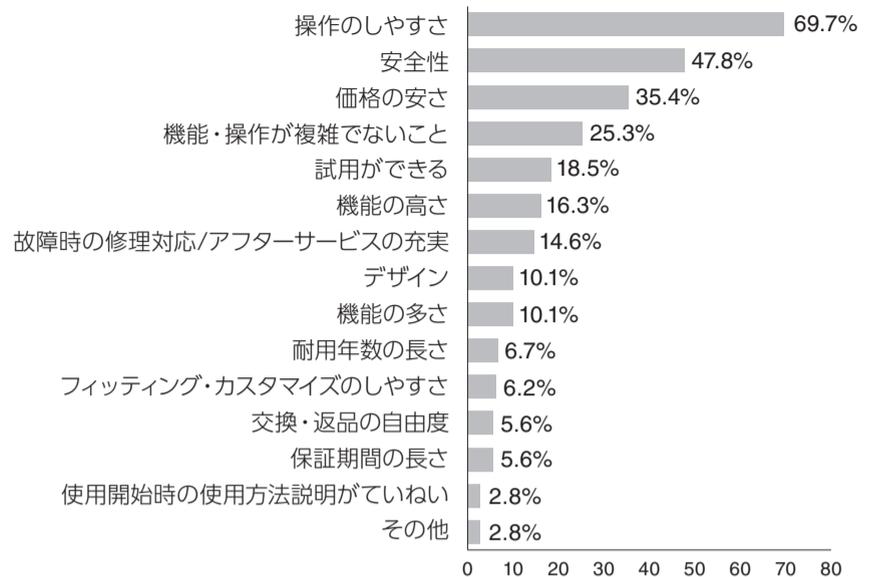
〔※3つまで選択可〕

福祉機器の利用にあたって望むこととして、「操作のしやすさ」が69.7%と最も多く、2番目に「安全性」が47.8%と続きました。

また、「機能の高さ」を重視すると回答した割合は昨年よりも1.8ポイント高く16.3%でした。

誰でも簡単に操作でき、安全面が保証されているという機能は欠かせない一方、最先端の技術を活用した多機能で便利さを追求する機器の開発が注目されていることが伺えました。

以降、「価格の安さ」が35.4%、「機能・操作が複雑でないこと」が25.3%でした。



6 福祉機器の開発・利用についてのご意見

〔自由記述〕

(1) 福祉機器の開発に期待するご意見

- 最近の福祉機器は多機能ですが操作が難しいと感じることがあります。高齢者や障害者（児）を含め、誰もが手に取りやすく簡単に操作できる福祉機器製品の開発を望みます。
- コンパクトかつカラフルで楽しそうに見えるようなデザインで、そばに置きたくなる製品だと良いと思います。
- アフターサービスの充実を期待しています。サポートが終わってしまった製品だと、修理が困難で代替製品もないことがあり次の製品を探すことに困ることがあります。
- 安全安心であることを大前提に、使いやすく壊れにくい、壊れたら簡単に直せるような機器の開発をしてほしいです。
- 狭い家でも使いやすい機器が必要だと考えます。日本の住宅事情に寄り添った製品の開発を期待しています。
- 利用者に対して操作方法を説明しづらい製品があるため、簡単な説明だけでも利用者が理解しやすいようなデザインにしてほしいです。
- 高齢者、障害者のQOL向上に資する製品の開発をこれからも期待しています。
- とても機能面で充実した製品が多くなったと感じています。あとは手に入りやすい価格になれば良いと感じています。
- 福祉機器に対して「高齢者・障害者のためのもの」というイメージをもって、最初の導入で抵抗のある方が多いです。福祉機器は自立を図ることができる一般的な製品として、理解され浸透してほしいと思います。
- 利用者一人ひとりの状況にあわせて微調整ができるような機器や、部品のカスタムが可能なセミオーダーができる仕組みができれば良いと考えます。

(2) 福祉機器利用者の情報収集や企業による情報発信に関するご意見

- 企業の連絡先に電話も記載してほしいです。電話しか使用できないため、メールのみの場合あきらめたことがありました。
- 試用できることが重要だと考えています。試用できる場がもっと増えてほしいです。
- カタログの製品情報が文字だけであったり、写真の画像が荒くてイメージがつかないことがありました。ビジュアル面での情報提供を重視してほしいです。
- 福祉機器開発・販売メーカーの人と福祉機器のユーザーが直接意見交換できるような場があったら良いと考えます。

- 福祉機器の様々な情報を集約したポータルサイトができれば良いと思います。類似製品を一度に比較検討できるような仕組みがほしいです。
- 開発中ということで期待していた製品が、いつの間にかとん挫してしまっていたということがあったため、開発過程の情報が見られたり利用者が支援できるような仕組みがあれば良いと思います。
- ホームページには最新の情報を掲載してほしいです。Web上で見つけた機器がすでに販売終了しているという経験が多々あります。
- 自動で、自身の身体状況に適した製品をピックアップしてくれるようなAIの仕組みがあればもっと製品が探しやすくなると思います。

(3) 今後の開発に期待したい具体的な福祉機器・用具

- 試用してみたいコミュニケーション機器のアプリやソフトがあっても、自身のスマートフォンのOSに対応していないコンテンツがありました。今後普及して対応することを期待しています。
- 日常生活の中で、はさみや食事用のナイフなど左手で使える物が少なく不便さを感じています。利き手に関わらず使える製品が普及してほしいと思います。
- 電動車いすに介助者が操作できるような電動アシスト機能がほしいです。急な坂等があったときに便利だと思います。
- どのような体型でも身体の湾曲にフィットして適応することでもれないようなオムツの開発に期待しています。
- ICT化がどんどん進んでほしいと思っています。スマート家電を使って、自身でできることが増えたことが嬉しいです。
- 高齢者が在宅で活用できる福祉機器の開発や、日常生活の中で工夫できる情報を知りたいです。
- ユニバーサルデザインの視点で、高齢者だけでなく、皆が美味しく楽しめる介護食の開発を期待しています。
- 感覚過敏に対応した製品の開発がもっと進んでほしいです。
- スマート家電のように、福祉機器もスマートフォン等の身近なICT機器と連動したかたちになると使いやすいと思います。

